

# 倉吉市周遊滞在型観光地モビリティ向上計画 (案)

第1章. はじめに

第2章. 周遊滞在エリアの地域特性

第3章. 観光客等の移動実態及びニーズの把握

第4章. 実証実験の結果概要

第5章. 周遊滞在エリアの課題の整理

第6章. モビリティ向上の方向性と具体案

第7章. 周遊滞在エリアの整備構想

第8章. 今後のスケジュール

令和5年2月

倉吉市

## 1 計画策定の背景と目的

### ■本計画の背景

- ・交流人口の拡大による地域経済の活性化を図るため、『レトロ&クールツーリズム』を推進。
- ・観光入込客数の伸び悩みや観光客の市内滞在時間が短いため、観光消費額の増大や交流人口の創出に繋がっていない状況です。
- ・年間約60万人が訪れる主要観光スポット「赤瓦・白壁土蔵群エリア」周辺に新たな魅力が続々と誕生。（平成30年 円形劇場くらよしフィギュアミュージアム、令和元年 打吹回廊、令和3年 小川氏庭園 環翠園、令和7年 鳥取県立美術館など）

### ■目的

- ・県立美術館～赤瓦・白壁土蔵群エリア～円形劇場・小川氏庭園周辺の東西約2.5km×南北0.5kmの範囲を『周遊滞在エリア』と位置付け、令和7年春の県立美術館の開館の動きに合わせて、倉吉らしい周遊滞在型観光まちづくりを推進します。
- ・県立美術館の年間入館者数10万人を取込み、観光入込客数の増加と滞在時間の延長による地域経済の活性化、交流人口の増加、リピーターの創出による移住定住の促進等を目指します。

観光客の利便性向上

×  
暮らし良さの向上

=

倉吉らしい周遊滞在型  
観光まちづくり

## 2 計画策定の経緯

- ・本計画は令和3年にWEBアンケート調査や地域試乗会等を開催し、それらの結果を踏まえて素案を作成しました。
- ・令和4年度には計画に基づき実証実験を実施しました。本計画は、その実証実験の結果を踏まえて素案を成案化したものです。

令和3年 WEBアンケート調査、地域試乗会等  
を実施

令和4年3月 倉吉市周遊滞在型観光地  
モビリティ向上計画素案の作成

令和4年10～11月 実証実験の実施

令和5年3月 倉吉市周遊滞在型観光地  
モビリティ向上計画の策定

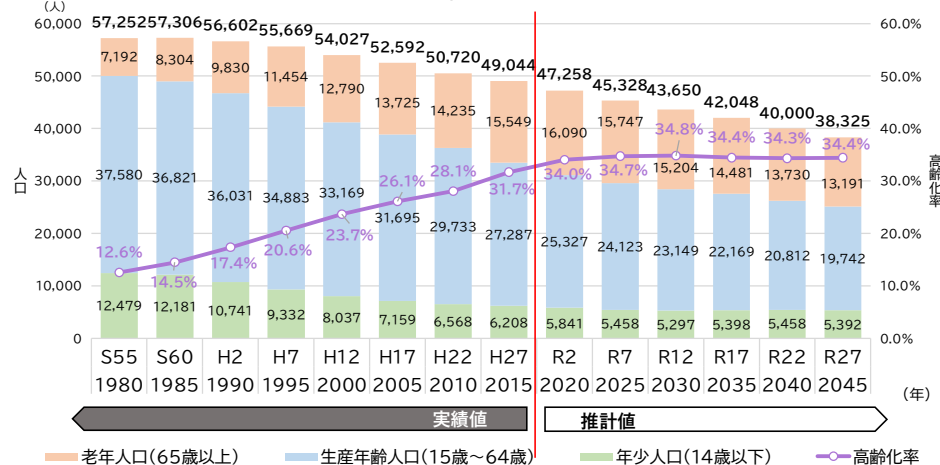
## 3 対象地域

- ・以下のエリアを本計画の対象エリアとします。



## 1 地域特性の整理

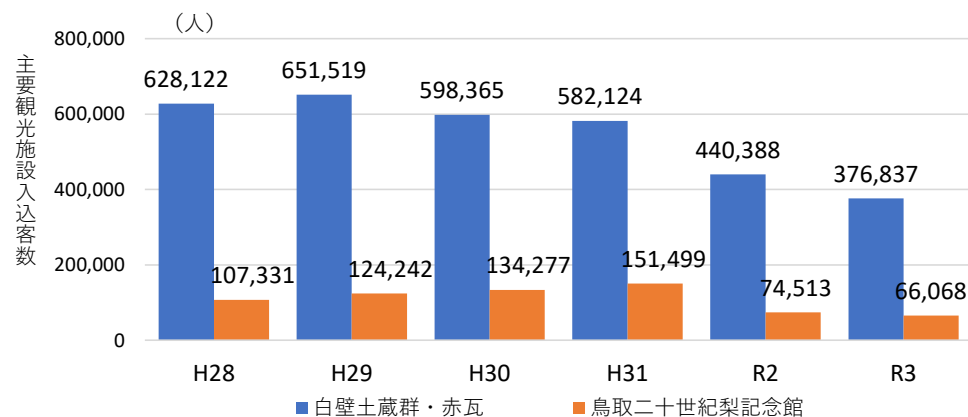
○本市の人口は減少傾向で推移しており、今後も減少傾向で推移していくことが予想されます。一方で高齢化率は増加傾向で推移していくなど、このまま推移すると地域経済の活力低下が懸念されます。



▲本市における年齢3区分人口と高齢化率の推移

出典：国勢調査、倉吉市人口ビジョン

○「白壁土蔵群・赤瓦」における入込客数は、H29年以降減少傾向ですが、「鳥取二十世紀梨記念館」は、近年増加傾向です。○しかし、令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、いずれも入込客数が大きく減少しています。



▲主要観光施設入込客数

出典：観光客入込動態調査結果

## 2 交通特性の整理

○周遊滞在エリア周辺では、市の無料駐車場が合計で11箇所（普通1,227台、大型30台）配備されています。



▲打吹地区周辺の観光駐車場MAP

出典：倉吉市駐車場マップ

○周遊滞在エリアの中心部である白壁土蔵群と倉吉駅の位置関係は、下図に示すとおりで、倉吉駅から周遊滞在エリアまでは路線バスが走行しています。また、エリア内にはレンタサイクルの使用が可能です。



▲周遊滞在エリアのバス路線と鉄道路線

出典：倉吉市